

慈光

第76号
2022.1.1発行

宝蔵院
川口市安行慈林954
TEL048(281)3321
FAX048(281)3305



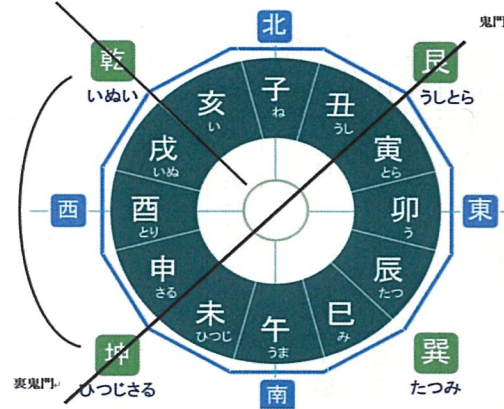
十二支と仏教の関わり 十二支とはなにか

皆さまに一番身近な神仏は干支ではないでしょうか(正確には干支の守り本尊)。それは、年毎に干支が配当されているからです。今回は、干支とは何か、干支の守り本尊とは何かについて、日本における干支(十二支)の文化をみていきたいと思います。

古来から暦を表す際に十二支は用いられてきましたが、日本においては、方角を示す時にも使われます。その具体例として有名なのが、昔話の「桃太郎」です。桃太郎の登場人物で中心となるのは「鬼(申)・雉(酉)・犬(戌)」です。一般的な絵本等で描かれる鬼の姿は、丑の角を持ち、虎のパンツを履いていると思えます。絵を見て貰えばわかりますが、



鬼は鬼門の方角を象徴する姿をしており、桃太郎が連れてくる家来たちは鬼門を封じるとされる裏鬼門の方角の動物たちなので(実際の裏鬼門は未(羊)が配当されておりますが、桃太郎のお話でできた江戸時代には、一般庶



民にあまり馴染みのない動物であったことから、戌(犬)が当てられたと考えられます。多くの皆さまに馴染みのある十二支の事例を紹介しましたが、次がいよいよ本題の仏教との関わりについてです。

仏教においても暦や方角を示す場面で使われますが、守護者としての干支という側面もあります。単に干支の動物が、ということではなく、神仏に干支(十二支)の概念が組み込まれた結果、守護者になったということです。最たる例がお薬師さまの眷属

である十二神将です。十二神将は仏教の守護者であると同時に、時・月・日・方角を守護する存在でもあります。日本における仏像の造形は、一般的に十二神将の頭上に干支が彫られているものが多くあります。そして、十二神将には本地仏という仏としての姿があり、一説を示すと次のようになっていきます。

- 宮毘羅大将(弥勒菩薩) 子年
 - 伐折羅大将(勢至菩薩) 丑年
 - 迷企羅大将(阿彌陀如来) 寅年
 - 安底羅大将(観音菩薩) 卯年
 - 頰囉羅大将(摩利支天) 辰年
 - 珊底羅大将(虚空藏菩薩) 巳年
 - 因達羅大将(地藏菩薩) 午年
 - 波夷羅大将(文殊菩薩) 未年
 - 摩虎羅大将(薬師如来) 申年
 - 真達羅大将(普賢菩薩) 酉年
 - 招杜羅大将(金剛手菩薩) 戌年
 - 毘羯羅大将(釈迦如来) 亥年
- ※本地仏・十二支の配当には諸説あります。

以上のように、十二神将には仏さまとしての姿もあるのです。(6ページに続く)

初薬師大護摩修行(ご縁日)

令和4年1月8日 午後12時半から法話 13時より護摩修行

慈林薬師大護摩

慈林薬師では毎月8日ご信徒の諸願成就を祈る御護摩を修法しています。御護摩の利益は、数限りなく古来多くの方から信仰をいただいております。

御護摩とは、薬師如来を御本尊とし、その前に壇を設け、さまざまな供物を捧げ、護摩木という特別なまきを焚いて御本尊に祈る真言宗の秘法です。御護摩の火は智慧を象徴し、まきは煩惱を表わしています。御護摩の祈禱を通じてまきという煩惱を薬師如来の智慧の炎で焼きつくし、ご信徒の願いが清浄な願いとして高まり成就することを祈ります。

◆お護摩料◆

特別大護摩料	30,000円以上
大護摩料	10,000円
護摩料	5,000円
御護摩料	3,000円

◆護摩願意一覧◆

家内安全	工場安全
商売繁盛	作業安全
身体安全	工事安全
厄災除	旅行安全
心願成就	開運満足
安産満足	入学成就
身上安全	合格成就
火難消除	学業成就
災難消除	就職成就
当病平癒	交通安全
無病息災	必勝祈願
手術成就	方災消除
負傷平癒	六三除
社運隆昌	虫封
事業繁栄	御札

(1ページより続く)
当寺には薬師如来をはじめ、日光・月光菩薩、そして十二神将が安置されております。ぜひ1月8日の初薬師大護摩修行にお参りいただき、自身の干支の神仏へ1年の無事を「ご祈念ください。」

本山団体参拝のご報告

去る令和3年11月4〜6日に、総本山智積院への参拝を中心として、仁和寺などの古刹を巡る巡拝を行いました。例年、年に一度は檀信徒の皆さまとともに各地の霊場参拝を行っておりましたが、コロナウイルスの蔓延により、昨年は開催することができませんでした。9月になり、緊急事態宣言が解除される向きとなり、大急ぎで準備をし、今回の本山参拝へと漕ぎつけました。なお、例年は5月の中旬に巡拝を行っております。コロナ禍が落ち着けば例年通り計画をいたしますので、ぜひ多くの檀信徒の皆さまにご参加いただけたらと思います。



寶蔵院 総本山智積院参拝記念 令和3年11月5日

団体参拝では、一般の旅行では入れないところ、見れないもの、体験できないことが出来るというメリットもあるのでオススメです。今後、寺院受付、ホームページ等で周知を行いますので、ご確認をお願いいたします。